

## 第2回ミニ学習会～サリドマイド～ を開催しました♪

2014.10.23 「薬害は薬が原因と思いませんか？」の問いかけから、サリドマイド被害者-間宮清さんの講演が始まりました。

薬害の本質は薬ではなく、それを取り巻く評価、利益、対応と「人」によるものが大きいのだというところに辿りつかせてくれるものでした。

学生からは、講義で聴くのと違い、耳に目に心に残る貴重な経験だったと感想がありました。また、1年目薬剤師から、明日からでもできることをしていきたい、という感想に、「何をしようか？PMDAの副作用情報、リスクマネジメント情報に、今日からアクセスしていくのもその一つですよ」と具体的な策も提示してくれました。

また、薬害には偏見という被害もあります。間宮さんは、2歳上の兄も薬害の被害者だと思う、と言います。自分の兄であること、弟の裁判とかで親の愛情を十分に感じられなかったのではないかと。「私の名前はなかなか決まらなかった。大人たちは混乱してつけられなかったのだろうね。それで兄に聞いたらすかさず『キヨシがいい』って。それできました」

薬害を繰り返さないことは私たちの重要な仕事だと感じ入りました。



前号の、検証委員会(薬害肝炎の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会)の最終提言-2010年-特に第三者監視組織の設立は実行されているのでしょうか?

答えは「否」。なんと、提言から4年たっても実現していません。厚労省の内部組織として作ることを政府が提案してきたためです。これまでのメーカーの意向を存分に汲んだ体質を変えたくない目論みがあからさます。

子宮頸がんワクチンの副作用を検討する専門部会の委員が製薬会社から講演料をもらっていたなど、独立性が保たれない安全行政は続いています。

利益相反のない委員による薬事行政監視組織の重要性は明白です。実現に向けてしっかり注目して行きましょう。



### 薬いろいろ●ディオバン>事件-久しぶり2回目

5つの大学の医師主導臨床研究で、バルサルタン(ディオバン<sup>®</sup>)群では非ARB群よりも心血管イベントを減少させたという、著名な医学雑誌のLANCETにも載った研究が、元メーカー社員のデータ解析者による捏造されたものだったという事件です。

11/24国民の医薬シンポジウムで武蔵国分寺公園クリニックの名郷医師は、もともと捏造がなかったとしても、この臨床研究がまともな研究であったのか!と題して講演をしてくださいました。

答えは「否」(-おっ・今月ニュース二回目のフレーズ)研究デザイン、解析法を読み解くだけでも、比較薬、対象者、良い結果を出す都合のよい層別解析や、評価事項の変更と問題多々ある研究で、信用性が少ないことが示されました。

では何故、ディオバン<sup>®</sup>は現場に受け入れられたのでしょうか?ARBが本当に特別なのかも含め、次回につなげていきたいと思えます